

愛知学院大学 教職支援センター一年報

第6号
.....
(2023年度)

研究論文

キャリアパスポートからとらえる今後の学校教育の方向性
——「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業を通して——
..... 山本 信幸 1

活動報告等 (2023年度) 23

キャリアパスポートからとらえる今後の学校教育の方向性

——「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の 授業を通して——

山本 信幸*

キーワード：キャリアパスポートで振り返る足跡、自己のキャリア形成、小中高校で一番心に残っている思い出、キャリア教育で伸ばす資質・能力、令和の日本型学校教育、学習指導要領の内容見直し、今後の学校教育の方向性、特別活動の着実な実施と時間確保、校内部活動の推進

教職課程科目「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業において、キャリア教育の展開にキャリアパスポートを活用している。小中高校の自己の足跡を振り返るポートフォリオであり、指導者として児童生徒の指導をするにあたり、「指導者が書けないことを児童生徒に強いてはならない。児童生徒が書く内容を想定するために指導者の立場から書いてみる必要がある」と指導し、学生に書かせている。その内容を授業で発表させているが、時間の都合で学生全員の発表はできなく、全体としての傾向をとらえることができなかった。今回、学生が振り返った小中高校の思い出項目を集計し、学生にとって自己のキャリア形成に役立った中高校の思い出が何であったのかを振り返る集計調査を実施した。

そして、本稿では、日進キャンパスと名城公園キャンパスの学生（令和4年度92名、令和5年度134名）226名と他大学（令和5年度3つの大学）139名、計365名がキャリアパスポートに記載した内容を検証し、文科省の方針である「令和の日本型学校教育」の方向性と関連付けて論じる。

はじめに

「私は小中高校でいじめをされてきて、学校では泣きませんでした、家でよく泣いていました。いじめてくる子たちから、いつも幸せそうで見るときにイライラする、と言われてきました。何でそんなことを言うのだろうと嫌で悩みました。家に帰ると、母がいじめた子たちをすごく怒っていました。父母が、何かあったら家に帰っておいで。学校のことは先生に言うことしかできないけれど、家では一番幸せにしてあげるから。幸せにするために産んだのだからと、言われたのを思い出しました。学校でどんなに仲間外れにされ

* やまもと のぶゆき 教職支援センター 本学非常勤講師

でも、家には優しくて頼れて、私を一番気にかけてくれる両親がいたから、辛かったけれど、何とか乗り越えることができたのかなと思っています。誰かひとりでも本当に頼ることや信頼できる人がいることや自分の居場所があることが、生きていくのに大切なのだと実感しました」。

これは、いじめを扱った授業後のK（文学部2年）さんの感想の一部であるが、筆者が義務教育現場に勤務していた頃、教師としてこのような児童生徒に気づかず、支援することもなく見逃してきたのではないかと自戒し、胸が痛んだ。その数週間後の授業で、文科省がキャリア教育で活用する目的として資料提示しているキャリアパスポートに自己の「小中高校時代に一番心に残っていること」と「そのことが今の自分の成長にどのような役立っているのか」を記載させる授業を行った。Kさんはキャリアパスポートにいじめのことを記載すると思い込んでいたが、「小学校→学級の係活動、中学校→部活動、高校→大学受験」と、いじめに触れていなかった。Kさんにとって学校はマイナスのイメージばかりでなかったのである。その思い出の振り返りが「今の成長にどう影響したか」については、「小学校→任されたことに責任をもって最後までやること、中学校→嫌なことがあっても一度やると決めたら最後までやる、高校→途中で諦めないこと」と記載していた。学校はKさんにとって辛い場所であったかもしれないが、キャリア形成を育む場所でもあり、また自己のキャリア形成に役立つ教育活動が学校に存在していたのである。

そこで、キャリアパスポートに記載された小中高校の振り返りの足跡から、キャリア形成に役立つ教育活動が何であったのかを調査しようと思いついた。その検証結果を文部科学省の方針である「令和の日本型学校教育」と調査結果を関連付け、今後の教育改革のあるべき方向性を論じていく。

本稿では、日進キャンパスと名城公園キャンパスの学生（令和4年度92名、令和5年度134名）226名と他大学（令和5年度3つの大学）139名、計365名の記載項目をデータとして使用し、それを今後の教育改革のあるべき方向性の根拠とする。

1 「キャリアパスポート」を授業内に取り入れる根拠

(1) 学級活動及びホームルーム活動(3)の指導に有効性のある資料

「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業で、特別活動において学級活動（小中学校）及びホームルーム活動（高校）の内容に「一人一人のキャリア形成と自己実現」がある。キャリア教育の要に特別活動があり、学校、家庭及び地域における学習や生

活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活の意欲や将来を考える活動を通して、キャリア形成を図っていく指導法を解説している。その際、児童生徒が記載したポートフォリオ形式のキャリアパスポートに、小学校1年生から高校3年生までの12年間の活動記録を蓄積していく。教師は、その記録に対してコメントや面談によってフィードバックする支援をしていく。児童生徒は、そこからキャリア形成の資質・能力である「①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力」を伸ばしていくことになる。

(2) キャリアパスポートに記載することで児童生徒の立場を理解する必要性

キャリアパスポートは2020年度に文部科学省が提示した方針であったが、コロナ禍で実施が遅れ2023年度から多くの小中高校で活用されるようになった。つまり、キャリアパスポートの存在を知らない学生たちが多くのである。そこで、高校3年生のキャリアパスポートの一部を取り上げ、生徒の立場になって実際に記述させ、その後、生徒に強いることは教師もする必要性と、生徒の実態を予想して指導に役立てる展開方法を解説した。

授業で学生に記述させたキャリアパスポートの内容は以下の資料である。

小学校から高等学校までを振り返る

○自分自身のこれまでを振り返って、「足跡」をまとめよう。 記入日 年
月 日

(小学校)	一番心に残っていること	➡	自分自身の成長にどのように影響したか
(中学校)		➡	
(高等学校)		➡	

○自分自身の「現在（今）」と「将来」についてまとめよう。

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
自分のよき面				
成長点				

2 研究の方向性

(1) キャリアパスポートの記載内容から教育活動の改善を見つめて

「はじめに」で紹介したKさんのいじめの思い出は、小中学校の教育現場に長年携わってきた筆者にとって胸の痛む内容であった。しかし、キャリアパスポートによる小中高校の一番の思い出がいじめではなく、係活動（小）、部活動（中）、大学受験（高）を挙げ、「やり抜く大切さが身についた」という自己評価をしていた。Kさんにとって、いじめは辛い思い出であっただろうが、学校での教育活動からキャリア形成を築き上げていることが分かった。それを受け、学生たちの小中高校の一番の思い出が何で、そのことがどのようにキャリア形成に役立ったのかを調査したい思いが高まった。さらに、その検証が今後の学校教育の改善への方向性がとらえられるのではないかと考えた。

(2) 今後の教育改革の方向性と照らし合わせて

文部科学省から令和3年「令和の日本型学校教育」の構築を目指した方針が発表された。その概要を以下の5点にまとめることができる。

- ①急速に変化する時代の中で育むべき資質・能力の育成（学習指導要領の着実な実施、ICT活用など）
- ②日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて（働き方改革、GIGAスクール、少子化と多様化など）
- ③2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿（アクティブラーニングやインクルーシブ教育システムなどの子供の学びとしての個別最適な学びと協働的な学びの実現、質の高い教職員などの姿、子供の学びや教職員を支える環境など）
- ④「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿について（学校マネジメントの実現、ICTと最適な組合せ、持続的で学びのある学校教育の実現など）
- ⑤「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用（Society5.0の実現にふさわしい学校の実現、必要不可欠なICTなど）

これらの方針は、「デジタルかアナログか」「一斉授業か個別学習か」「オンラインか対面か」などの二項対立ではなく、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていく教育活動を取り入れていく方向性が示された。そこで、キャリアパスポートの「小学校から高等学校までの振り返り」に記載された内容の集計結果と「令和の日本型学校教育」の方針と照らし合わせることで、学校現場のPDCAサイクルを意識できた学校教育活動の改善に生かせるヒントにできるのではないかと考えた。

3 学生の記述したキャリアパスポートの内容

日進キャンパスと名城公園キャンパスの学生（令和4年度92名、令和5年度134名）226名と他大学（令和5年度3つの大学）139名、計365名の集計は以下の通りであった。

【小学校の項目と内容】

*順位は10位まで表記

順位	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか (主なものと際立った内容の紹介)
1位 49人 (13%)	運動会	<ul style="list-style-type: none"> ・組み立てでみんなと協力する大切さを学んだ。 ・組立体操でけがをした人の役割をしたが、誰かの代わりに何かをする大切さを学んだ。 ・組体操で一人一人の役割と達成感を感じ、後の自分に大きく影響を与えている。 ・2学年の組体操で協力する大切さを学んだ。 ・大人数で組体操を完成させることから、子供なりに協力する大切さを学んだ。 ・組立体操で一人が欠けたら成立しない自分の存在の大切さに気付いた。 ・組体操で少し無理して成功させた達成感が段違い。 ・組立体操は全体のバランスが重要なので、全員が協力する姿勢を学んだ。 ・応援団長として仕事の役割を責任をもって最後まで取り組むことができるようになった。 ・応援団のリーダーをして、リーダーの難しさや大変さを知った。 ・4年のリレーで1位となり最後まで粘り取り組む大切さ。 ・小2のリレーで転んで泣きながら走ったけれど、失敗したり躓いたりしても途中で諦めない大切さを学んだ。 ・応援歌や応援ダンスを考え、先生に従うだけではなかった達成感があった。 ・学級の選抜徒競走で負け、負けず嫌いになった。 ・大人数でいろいろなことをすることが楽しかった。
2位 47人 (13%)	友人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と喧嘩をして、簡単に人を傷つけてしまうことを知り、言葉使いに気をつけるようになった。 ・毎日の休み時間に遊んだことで人と関わる楽しさを学んだ。 ・学童で友達とたくさん遊び、コミュニケーションの取り方を学んだ。 ・けんかの日々だったが、誰がいい人かを判断できるようになった。 ・友達と昼休みに外で遊び、友達と関わることを通してコミュニケーション能力が高まった。 ・友人関係のトラブルから、人とどう関わり自分はどうかと向き合うことができた。
3位 39人 (11%)	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつのことに打ち込む楽しさ。 ・上下関係の厳しさ、目上の人との会話の仕方を学んだ。 ・キャプテンとなって責任感がついた。

<p>4位 30人 (8%)</p>	<p>学級活動 学級生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学級委員から周りを見て行動する力がついた。 ・宿題を早く終わらせ遊びに行く。やりたいことをやるために、やらなければならないことを先にやること。 ・クリスマスパーティーで仲間の大切さや楽しさを知る。 ・毎月の誕生会などのお楽しみ会の企画運営をすることが楽しかった。 ・みんなで協力してやる楽しさ、やりがいを味わった。 ・学級崩壊を味わったが、それでも頑張ろうと思った。 ・係の仕事をしたことで、任されたことは最後まで責任をもってやることを学んだ。
<p>5位 26人 (7%)</p>	<p>修学旅行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼馴染と同じ班になったが先生から引き離された。しかし、「これだけは嫌だ」と伝え、自分の思っていることは意見として言えるようになった。 ・限られた時間でどう見学するかを計画する力がついた。 ・班決めで黙って困っていた時に、声をかけてくれてグループに入れてもらったこと。それ以来、自分から言い出すことを心がけている。
<p>6位 22人 (6%)</p>	<p>児童会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生を送る会で、人へ感謝する大切さを学んだ。 ・児童会役員になり、自分の考えを発信、実行する難しさを学んだ。 ・飼育委員としてウサギの世話をしたが、自分の心の成長に影響を与えた。 ・飼育委員として、命の大切さや協力することを知った。 ・飼育委員でウサギの世話をしたが、ただかわいいだけでなく、生き物を育てることに責任があることを学んだ。 ・委員会活動で尊敬できる先生と出会えた。 ・図書委員長となったのが、中学高校のクラス委員や生徒会をやるきっかけとなった。
<p>7位 21人 (6%)</p>	<p>先生との 出会い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目だった自分に「それじゃ人生楽しくないよ」と、力を抜くことを教えてくれ、そこから友人関係が良好となった。 ・2年間の担任で宿題に丁寧なコメントがあり、この先生のようになりたいと思った。 ・とにかく嫌いだった。先生のせいでクラスから仲間外れにあった。 ・転んだとき養護教諭が病院まで連れて行ってきて、養護教諭がかっこよく見えて憧れた。 ・担任の先生が途中で変わったことから、人それぞれ大変なことがあることが分かった。 ・通学帽子をかぶらずにいて叱られたが、秩序を守る必要性を覚えてくれた。
<p>8位 17人 (5%)</p>	<p>自然教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプファイヤーでトーチをしたことで、練習を重ねればできることを経験した。 ・キャンプで自分のことは自分でやるきっかけとなった。 ・1人ではできないことを皆でできた達成感を味わった。 ・過去にない校内に泊まる活動が楽しかった。 ・時間を守る大切さを学んだ。

キャリアパスポートからとらえる今後の学校教育の方向性

9位 14人 (4%)	学芸会	<ul style="list-style-type: none"> ・長いセリフの役に立候補し、人前で喋る大切さや努力することを学んだ。 ・先生と一緒に、みんなと共に作り上げる楽しさを学んだ。 ・自分の役割を果たす楽しみを知った。
10位 11人 (3%)	授業関係	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が早く終わると他の子に教えたことが楽しさになった。 ・自分たちが入れる小屋を作った達成感。 ・テストで100点を1回だけとって嬉しかった。 ・校庭の植物観察は自然と触れることができ楽しかった。 ・老人ホーム訪問を通して、自分の知らない言葉や物を調べ始めるきっかけとなった。 ・ナスやサツマイモなどを手がけ、農業の大変さを知った。 ・生活科で育てた野菜でカレーを作った。 ・恥ずかしがり屋で発言できなかったが、少しずつ頑張ることの大切さを知り、今では真逆になっている。
	いじめ (10人)	<ul style="list-style-type: none"> ・人に優しくできるようになった。 ・人間関係の作り方を学び、一人であることも悪くないと思えるようになった。 ・いじめがあったことに気づかず傍観者として加害者扱いを先生からされた。先生が必ずしも正しいわけではないこと、いじめは気づかないこともあることを学んだ。 ・周囲の病気に対する無理解から責められたが、必ず相手の立場や事情を把握し、一方的にしないと決めた。 ・いじめていた子の母親の手紙を先生が読み、心に効いた。相手の気持ちを考えるようになった。 ・心を痛めたので、いじめをしないと決めた。 ・先輩が自殺をして、死を身近に感じた。 ・いじめられて泣いていたら、過去に自分がいじめた子が話しかけてくれたことで、絶対にいじめはしないで人に流されないように生きようと思ったこと。
	転校 (10人)	<ul style="list-style-type: none"> ・初対面の人とも割とすぐに仲良くなれる。 ・コミュニケーションの大切さを学んだ。
	マラソン大会 (9人)	<ul style="list-style-type: none"> ・新記録と同タイムでトロフィーもらえず、悔しくて何事も本気で打ち込むことができるようになった。 ・毎朝や休み時間の練習で自信がつき、努力が結果に繋がるのが分かった。 ・嫌なことも逃げずに最後まで取り組むことができるようになった。 ・最後まで諦めなければゴールがあると思えるようになった。
	学習塾通い (8人)	<ul style="list-style-type: none"> ・県代表として珠算大会出場し、最初は嫌々でも結果的には好きになることが分かった。 ・友達作り、コミュニケーションの取り方を学んだ。 ・塾内でいじめられたが、人の気持ちが分かるようになった。
	ピアノ練習 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> ・やり遂げる良さを学んだ。 ・校歌のピアノオーディションに挑戦し、何かに挑戦する勇気をもらえた。

卒業式 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員として積極性が身についた。 ・新しい環境に身を置いて頑張ろうと思えた。 ・みんなと協力する大切さ。
縦割り活動 (5人)	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年の先生から褒められ、自信をもてるようになった。 ・楽しめる企画や実行が楽しかった。 ・他学年と交流することでコミュニケーション能力が身についた。
中学校受験 (5人)	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な課題に対して適切に対応できるようになった。 ・挑戦する大切さを学んだ。
給食 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> ・無理やり食べさせられたことで好き嫌いが多くなった。 ・人と会話する楽しさや好き嫌いがなくなった。
夏休みの宿題 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> ・自由研究をしたことで、分からないことを調べる習慣がついた。 ・毎日科学研究をして全然遊べなかった。
けが・入院 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上大会前にけがをし、大切な行事前にふざけないことを決意した。
怒られたこと (2人)	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題を提出しなかったが、提出物を出さないと後で悲しいことになることを知った。 ・連絡帳を1年間書かなかったことが見つかり、みんなの前で説教された。誰も見ていないと思っていても意外と見られていて、見られていないことにもしつかりやれるようになった。
職場体験活動 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと協力し合うことで大きなことを成し遂げられることに気づいた。
読書活動 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> ・感受性が豊かになった。
その他 (各1人)	遠足、水泳教室、ダンス、ホームステイ、地域貢献活動、演劇鑑賞会、日記、早起き、親の離婚、秘密基地づくり、宿題

- ・宿題 (小4で宿題をやらず泣いていたら、先生が「あなたの涙は必要ない」と言われた。泣いて許されなく初めてしっかりと怒られ、課題は必ず提出するようになった。)
- ・親の離婚 (人生の方向性が変わった。)
- ・水泳教室 (嫌なことでも成功するまで頑張ること。)
- ・早起き (生活習慣が整い、朝から元気に過ごせるようになった。)

【中学校の項目と内容】

順位	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか (主なものと際立った内容の紹介)
1位 127人 (35%)	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・とても厳しかったが目標のために妥協しない強さが身についた。 ・部長として責任感がつき、最後の大会で3点差で負けた悔しさが、その後のやる気につながった。 ・最後までやり切ること、努力する大切さを学んだ。 ・とにかく頑張る、本当に頑張る、一番忙しくて楽しくて、大変できつかったけれど、本当に楽しかった。

キャリアパスポートからとらえる今後の学校教育の方向性

		<ul style="list-style-type: none"> ・顧問と出会い、教師をめざすきっかけとなった。 ・全力で取り組み、忍耐力、礼儀が身についた。 ・マネージャーだったが、立場に関係なく怠けている人に迷惑をかけて怒られた申し訳なさ。 ・上下関係の難しさと距離感を意識すること。
2位 45人 (12%)	体育祭	<ul style="list-style-type: none"> ・応援副団長として人前に入る恥ずかしさがなくなり自信をもてるようになった。 ・運動が苦手でも一生懸命に応援している姿で頑張ることができた。 ・組体操を本番で成功させ、諦めない大切さを学んだ。 ・応援で好きな人の学ランを借りることができた。 ・運動の好き嫌い関係なく各活動で楽しめた。 ・自分のデザインが採用されて、嬉しくて自信となった。
3位 32人 (9%)	合唱コンクール	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで工夫した練習を毎放課に練習をしたが、これが今のグループ活動をする際に役立っている。 ・ピアノオーディションに理不尽に落とされ辛かったが、これ以上辛いことはないと思え、頑張れた。 ・努力を続けることで結果が出るとは限らず、最後までやる諦めない気持ちを学ぶことができた。
4位 24人 (7%)	修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史にまつわる建造物を見て、生を知ることができた。 ・平和記念公園に行き、戦争に興味をもつきっかけとなった。 ・新幹線が地震で止まり、急遽予定変更となったが、臨機応変に切り替える大切さを学ぶ。
5位 22人 (6%)	友人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞くようになった。 ・親友と出会え、今でも夢を高め合っている。 ・人との関わり方を学んだ。 ・親友が不登校になったが、登校しようと努力する姿を見て、人を支えるようになりたいと思った。
6位 21人 (6%)	高校受験	<ul style="list-style-type: none"> ・目標のために頑張ることで成し遂げる経験を得た。 ・ある先生との出会いで数学が好きになり、その後の大学受験でも数学で自信がもてるようになった。 ・落ちたけれど、推薦を出してもらえたことで自分に自信がもてるようになった。 ・第1志望に落ちたが、置かれた場所で頑張ることを学んだ。
7位 17人 (5%)	生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で話すことが苦ではなくなり、自信をもって行動することができるようになった。 ・委員長としてリーダーを務め、これまで自信のなかった自分に自信がわいてきた。
8位 13人 (4%)	先生との出会い	<ul style="list-style-type: none"> ・先生に学級委員を薦められ、引っ込み思案だったのを自信に変えてくれた。 ・認められたことで自己肯定感が得られた。 ・今の自分に繋がるきっかけとなった先生と出会い、将来の夢が決まった瞬間だった。

9位 12人 (4%)	学級活動・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な取り組みの大切さ。 ・学級旗づくりでみんなと協力する楽しさ。 ・色々な学級レクをみんなで企画し実施した楽しさ。
10位 11人 (3%)	職場体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出る大変さが分かり、仕事のチームワークや対応が分かった。 ・新鮮でとにかく楽しく、なかなか味わうことのできない体験だった。 ・仕事に対する価値観が変わった。
	授業関係 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史が好きになり、教師になってこんな風に教えたいと思った。 ・成績が悪化したが、諦めず頑張ることを学んだ、 ・毎回のテストを頑張り、計画的に物事を進める大切さを知った。 ・道徳の授業で、いじめ自殺のご遺族の話聞き、命の大切さを学んだ。 ・朝学は大変だったが、一番力がついたら実感できた。
	文化祭 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> ・準備で学級が対立したことで、物事を俯瞰的に見ることができるようになった。 ・将来の夢を発表する代表となり、自分のなりたいものが明確になった。
	自然教室 (6人)	<ul style="list-style-type: none"> ・カレーを班全員で作作り、協力する大切さを感じた。 ・協調性を身につけることができた。
	いじめ (4人)	<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わることが怖くなったが、人や周りを良く見るようになるようになった。 ・嫌がらせを受けていたが、相手の立場にたって寄り添えるようになった。 ・困ったときに周りに話す大切さを学んだ。
	不登校 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の子がいたがそれに気づかず、その背景にいじめが起きていたことが分かった。 ・心の疲労で学校を休んだが、世の中には理不尽なことも上手く聞き流すのが時に必要なことを知った。
	けが (2人)	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリを諦めずにしたことで、努力は報われることが分かった。 ・じん帯損傷でリレーに出られなかったが、第三者の視点で物事を見る、状況判断ができるようになった。
	アニメとの出会い (2人)	<ul style="list-style-type: none"> ・人生楽しんで笑ったもの勝ちと思えた。
	卒業式 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業アルバム題字を担当し、書道を続けようと思った。 ・友達を大切にしようと思った。
	その他 (各1人)	<p>転校、推し活、外人との出会い、日本人学校、人権集会、海外研修、ヤギ飼育、オリエンテーション合宿、夏休みの宿題</p>

- ・日本人学校 (文化の多様性について興味をもてた。)
- ・ヤギの飼育 (赤ちゃんが誕生する瞬間を見たとき、とても感動した。)
- ・夏休みの宿題 (一切提出しなかったが、何とかなるレベルには限界があることを学んだ。)

【高等学校の項目と内容】

順位	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか (主なものと際立った内容の紹介)
1位 139人 (38%)	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・かけがえのない友人ができ、他者を認め協力し合う力がついた。 ・地道でも長年続け努力する大切さを学んだ。 ・努力が必ず報われるとは限らないことを知ったが、努力する姿を友人が見ていてくれて支えてくれた。 ・部活を一から改革するのは大変だったが、行動力と思考力が成長した。 ・困難を乗り越える力がついた。 ・自分の勝ちにこだわっていたが、チームの勝ちを意識して人を信頼することを学んだ。 ・津軽三味線部でたった一人の男子部員として3年間続けた。 ・失敗した後の行動の仕方。 ・学業と両立する大切さ。 ・マネージャーとして陰で支える仕事と人間関係づくりを学んだ。 ・オーディションに落ちまくり、できない人の気持ちがよく分かるようになった。 ・自分の限界に挑戦する大切さ。 ・辛い練習に耐えたことでインターハイでチームが優勝し、些細なことでもくじけない心をもった。
2位 39人 (11%)	文化祭	<ul style="list-style-type: none"> ・企画する人によっても温度差があり、みんなをまとめる大変さがあった。そこから人に寄り添う大変さを知った。 ・バンドでドラムに挑戦した。 ・メイド喫茶で挨拶などの練習をし、熱中してやりきる楽しさを味わった。 ・コロナ禍の難しい時期に運営方法についてたくさん意見を出し合うことの大切さ。
3位 38人 (10%)	大学受験	<ul style="list-style-type: none"> ・親ともめたけれど、意見をぶつけ合うことで仲が深まった。 ・成績が上がっていくことで楽しく感じることができた。 ・失敗することはよいこと。 ・途中で諦めないこと。
4位 26人 (7%)	友人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合う大切さ。 ・大親友(悪友)をはじめとした最高の友人との出会い。 ・多様性を実感し、付き合い方を学んだ。 ・自分の良くない点を指摘してくれる人と出会い、人格形成につながった。 ・自分が生きる理由を見つけることができた。 ・彼氏ができ、その人中心に自分の世界が回っていた。 ・一生の友達ができ、助け合って大切にしようと思った。
5位 19人 (5%)	体育祭	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとしてみんなを引っ張っていく大変さと協調性を学んだ。 ・応援団幹部として、大勢を動かす難しさと楽しさを知った。 ・夏休みからみんなで頑張ってダンスの練習をしたのが一番の青春となっている。 ・夏休みからみんなで団旗づくりをし、協力して頑張る大切さを学んだ。

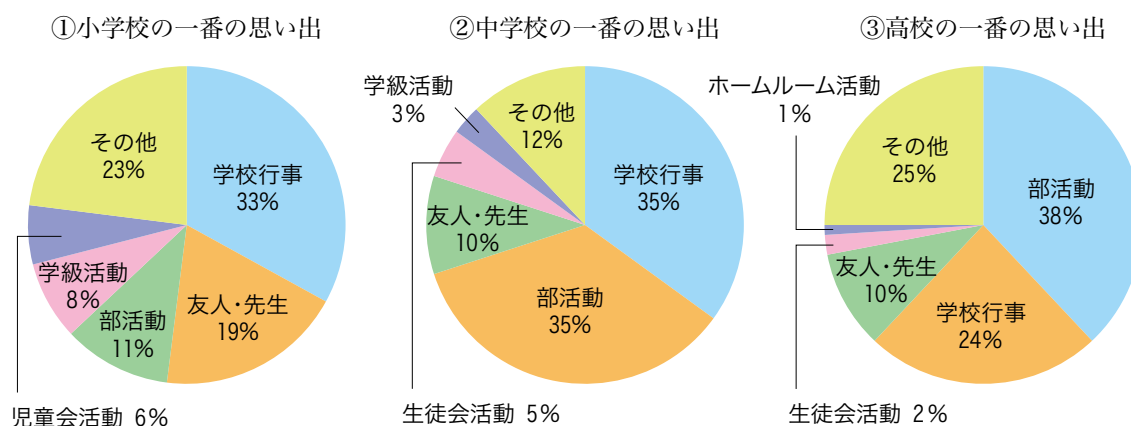
6位 18人 (5%)	修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・異国文化を学ぶ面白さを感じた。 ・班員と協力して何事も決め、自立心が育った。 ・気持ちのモチようで変わる。楽しんだもの勝ち。
7位 12人 (3%)	コロナ自粛	<ul style="list-style-type: none"> ・制限が多い中、全校が楽しめる企画をしたことで、リーダーシップが身についた。 ・SNSで友達を毎日交流をし人との繋がり大切さを学んだ。 ・コロナで心に残っている思い出はあまりないが、学級での何気ない会話がとても楽しく思えた。 ・遊びたいとき遊べる大切さを学んだ。 ・できなかったことがたくさんあったが、意見を出す大切さ。 ・修学旅行がなくなり愛知県内で行きたいところをピックアップしたことで、愛知県をより理解することができた。 ・普段学校へあまり行きたくなかったが、本当は学校に行けることが幸せだと思った。 ・当たり前前日常に感謝できるようになった。 ・オンライン授業で普通の学校生活を大切にしようと思えるようになった。 ・当たり前前が続かないことを知った。 ・ネット情報がすべて正しいわけではなく、自分の判断が一番大切だと思えるようになった。 ・ネガティブ思考からポジティブ思考になろうと思えるようになった。
8位 11人 (3%)	先生との出会い	<ul style="list-style-type: none"> ・「分からないことを聞くことは恥ずかしいことではない」と言われ、色々なことを人に聞けるようになった。 ・学校の先生になりたい思いがより強くなった。
9位 9人 (2%)	授業関係	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間かけて個人研究を行い、今まで学んだことが活かすことができている。 ・土曜授業は泣くほど嫌だったが、そのおかげで勉強の習慣ができ、大学でも好成绩をとれている。 ・家庭内暴力で兎相が入り、オール1の成績だったが、これから先は自己責任の世界だと痛感した。 ・生物の授業で学年で1位を2回とり、将来役立たないと思っても一生懸命勉強する大切さ。 ・1限から8限の授業で精神が鍛えられ、努力する大切さを学んだ。
10位 8人 (2%)	生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・人前でハキハキと喋り、思いを伝える難しさを経験できた。 ・リーダーシップをとれるようになった。 ・生徒会執行部として、リーダー性と積極性を身につけることができた。
	球技大会 (5人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドボールの経験者として初心者にあれこれ教えたことから、教え方の分析の仕方や人に合わせた指導の組み立て方。 ・みんなで声掛けをして雰囲気づくりをしていく大切さを知った。
	HR活動 (4人)	<ul style="list-style-type: none"> ・校則改正など企画力と実行力を学んだ。 ・集団内での立ち回り方を身をもって覚えた。
	留学 (4人)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の弱みを知ることができ。多くの人に支えられている感謝の気持ちがもてた。 ・新たな考え方が生まれてきた。

キャリアパスポートからとらえる今後の学校教育の方向性

いじめ（3人）	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の難しさを知ることができた。 ・あの時より辛い時はないと思って、何ごとにも頑張ることできるようになり強くなった。 ・周りに同じような子がいたら声をかけることができるようになった。
卒業式（3人）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の一番大切な行事で、実行委員を3年間務めた。
ボランティア活動（2人）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の絵本を英訳したことで、英語に興味をもち、もっと学びたくなった。 ・トラブルは成長の糧ということを学んだ。
読書（2人）	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力が身についた。 ・分厚い本を読み切った達成感から本嫌いではなくなった。
コンクール（2人）	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで定期演奏会がなくなった。 ・日頃の練習を積み上げる大切さ。
その他（各1人）	講演会、ひとりぼっち、宿題、遠泳、不登校、韓国好き、アルバイト、いじめ、語学、性被害、アニメ、特になし

- ・性被害（人は信用しすぎないこと。勤で人の善悪が分かるようになった。）
- ・不登校（担任と考え方が合わず登校拒否をした。知らず知らずのうちに自分の価値観が確立されていったことに気づいた。）
- ・「特になし」と回答した学生（小→小1の時に6年の人と学校を回ったこと。中→人権教育で奈良にある水平社自博物館を回ったこと。）
- ・総学（小→どれも楽しかった。中→記憶にないから楽しくなった。高→勉強や進路、行事の話し合いだった。）
- ・ひとりぼっち（人との距離感の取り方が分かった。）

【校種別の分野別割合】



4 集計の検証

(1) 小学校段階 一番の思い出とキャリア形成

「一番心に残っている思い出」の第1位が運動会であり、自分自身の成長に影響した競技の多くが組立体操であった。筆者はこの結果に驚愕した。その理由は、小学校勤務時代、子供たちの卒業文集の内容の多くが、修学旅行、学級での出来事、友達関係などであり、運動会を思い出としたものはほとんどなかったからである。学生は卒業して数年後、運動会から、達成感や協力性を学んだ点が自分の成長の糧となったと自己評価していることが分かる。少人数ではなく全校という異年齢集団の大集団の中で培われた点に注目したい。つまり、集団の一員としての役割や責任を自覚する活動が、自己のキャリア形成となる「自己理解・自己管理能力」の育成に役立っていたのである。特別活動のめざす目標のひとつである「自己実現」の育成に、学校行事のひとつであり、異年齢集団活動としての運動会が関わっていたのである。

次に、運動会とは僅差で第2位であったのが友人関係である。友達と休み時間に遊ぶことを通して、人間関係形成の資質・能力を伸ばしている理由が多かった。つまり、人との関わり、仲間づくりの仕方、コミュニケーションのとり方などを通して、自己のキャリア形成となる「人間関係形成・社会形成能力」の育成が友人関係から図られている。ここでもまた、特別活動のめざす目標のひとつである「人間関係形成」の育成が友人関係から培われているのである。

小学校の場合、他校種と比べると、学級内の活動の思い出が多く、また多岐にわたった思い出が多い。このことから、小学校段階でこそ多くの体験活動の経験を重視する必要があることが分かった。また、グラフ①「小学校の一番の思い出」の教育活動の分野別では、学校行事33%、友人・先生19%、部活動11%の3項目が全体の約3分の2を占めている。さらに、学校行事が全体の3分の1を占め、集団の一員を自覚した活動が展開される特別活動がキャリア形成の育成に大きな影響力と有効性があると判断できる。

(2) 中学校段階 一番の思い出とキャリア形成

中学校の第1位は想定していた通り、部活動であった。自分で選択した入部であるため最後までやり抜く粘り強さや努力の必要性を自らでとらえ、キャリア形成に繋げている。また、異年齢集団から人間関係の在り方を学び、自分自身の技能や能力が高まっていく喜びを味わうことができている。第2位の体育祭は、応援団の活動からリーダー性と団結力の素晴らしさを学んだという理由が多く、生徒会活動や学級活動も同様であった。第3位

の合唱コンクールは学級の団結を図る活動として、中学校では最も団結意識の高まる学校行事であることは筆者が中学校勤務の際に肌で感じており、納得の第3位と感じている。しかし、現在の高校1・2年生の多くはコロナの影響で合唱コンクールを経験していない。彼らが中学校生活を振り返る際、何を挙げるのであろうか。

中学校の場合、異年齢集団活動や学級集団での活動から、自分の考えや立場を考慮し、リーダーとして、またフォロワーとしてどのように集団や活動に関わればよいのという課題対応能力が高まっていく段階でもある。第10位の職場体験学習は、中学校ならではの活動であり、「仕事に対する価値観が変わった」という記述からも、キャリアプランニング能力が培われていることが分かる。また、グラフ②「中学校の一番の思い出」の分野別から、学校行事35%、部活動35%の二つの活動だけで全体の70%を占めており、特別活動の学校行事と部活動は中学生のキャリア形成を育む中核となる活動である。

(3) 高校段階 一番の思い出とキャリア形成

「一番心に残っている思い出」の第1位は想定した通り部活動であった。中学校から続けていて「地味でも長年続け努力する大切さを学んだ」という理由が多く、そのことから自己管理能力が育まれていることが分かる。第2位が文化祭であるが、リーダー性という観点からだけでなく、自分たちで企画運営する課題対応能力を高め、さらに磨きをかけているのである。

高校で着目したいのが、第7位のコロナ自粛である。今の大学生は「コロナ世代」と表現してよいほど、新型コロナウイルス感染症による休校、行事の中止や自粛、オンライン授業、昼食の黙食など、非常事態下で学校教育が行われた数年間を過ごした。しかし、今回の調査から生徒たちはコロナ自粛をマイナスとしてとらえておらず、プラス思考でとらえていたことが分かった。「コロナ禍の難しい時期に文化祭の運営方法についてたくさんの意見を出し合う大切さ」という制約された教育活動から課題対応能力を発揮して文化祭の実施を目指していたことが分かった。また、「当たり前の日常に感謝」、「制限が多い中、楽しめる企画をした」、「オンライン授業で普段の生活を大切にしようと思った」などと、当たり前の生活への感謝や創意工夫の必要性、次のステップへの励みにしようとする前向きな考え方をもっていた、学生たちのよりよい学校生活を築き上げようとする逞しい姿を知ることができ嬉しくなった。

高校の場合、他校種と比べると、部活動の思い出が吐出している。グラフ③「高校の一番の思い出」の分野別からは読み取れないが、コロナ自粛（3%）が生徒会活動やホーム

ルーム活動を抑えて実質の第4位となる。教育活動の分野別では、部活動38%、学校行事24%の2分野で全体の約6割を占めている。その活動から、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を高めており、部活動と学校行事がキャリア形成の柱となっていることが分かる。

(4) 小中高校の比較検証

【校種別思い出項目 (表①)】

	小学校	中学校	高校
記載項目数	35	27	30
項目第1位	運動会 (13%)	部活動 (35%)	部活動 (38%)
項目第2位	友人関係 (13%)	体育祭 (12%)	文化祭 (11%)
活動分野別第1位	学校行事 (33%)	学校行事 (35%)	部活動 (38%)
活動分野別 第1位・第2の合計割合	学校行事 (33%) 友人・先生 (19%) 計52%	学校行事 (35%) 部活動 (35%) 計70%	部活動 (38%) 学校行事 (24%) 計62%
校種ならではの項目	マラソン大会 (2%)	合唱コンクール (9%)	コロナ自粛 (3%)
全体に占める特別活動の割合	47%	43%	27%

活動分野別の学校行事については、儀式的、文化的、健康安全・体育的、遠足(旅行)・集団宿泊的、勤労生産・奉仕的の5つの学校行事の合計数である。校種を問わず、思い出に残っている教育活動は学校行事が突出している。児童会・生徒会活動や学級活動及びホームルーム活動も含んだ特別活動全体の割合では、小学校47%、中学校43%と、義務教育段階の特別活動の重要性が数値からとらえることができる。

【キャリア形成を伸ばす教育活動 (表②)】

資質・能力	ベスト10入りした思い出項目
人間関係形成・社会形成能力	運動会、体育祭、合唱コンクール、友人関係、部活動、学級活動・学級生活、自然教室、生徒会活動
自己理解・自己管理能力	友人関係、部活動、先生との出会い、学芸会、コロナ自粛
課題対応能力	修学旅行、文化祭、コロナ自粛
キャリアプランニング能力	授業関係、高校受験、職場体験学習、先生との出会い

資質・能力の4観点については、キャリアパスポートで紹介されているキャリア形成から伸ばす4つの資質・能力であり、今回の調査結果の「自分自身の成長にどのように影響

したか」に記載された内容を筆者なりに当てはめてみた。

【表①と表②の分析】

学校行事が最も思い出の項目として突出している。学校行事は、キャリア形成で伸ばしたい4つの資質・能力の観点で踏まえていることが分かる。小中高校で思い出ベスト10入りした思い出の項目をキャリア教育で伸ばしたい資質揚力に分類してまとめた表②からは、圧倒的に「人間関係形成・社会形成能力」を伸ばす思い出が多いことが分かる。また、その項目のほとんどが学校行事で占めている。つまり、異年齢集団による活動、グループよりも大人数での活動、人との関わりのある活動が、小中高校時代の足跡として一番心に残っていることが分かった。

部活動については、高校と中学校ともに35%前後の割合であり、自己管理能力と人間関係形成能力を伸ばすのに役立っている。学校教育において、自らの自由な選択で取り組むことができるのが部活動である。そこでは自己管理能力を発揮し、集団内での人間関係も意識した活動をするからこそ、思い出の上位になるのである。

学校行事以外で注目したい思い出の項目は、友人関係、先生との出会い、コロナ自粛の3点である。友人関係から人間関係形成能力を伸ばした理由として、小学校では休み時間の遊び、中学校では親友ができる出会い、高校では一生支え合える関係、というのが主であった。ベスト10に入っていないが、いじめ項目では、「いじめられている子の気持ちが理解できるのでいじめをしない」というとらえ方から、人間関係形成能力と自己管理能力を伸ばしているケースもあった。また、先生との出会いの思い出の項目のほとんどは、今後の自分の生き方の指針とする確固たる師弟関係を感じる。しかし、「とにかく嫌いだった」という反面教師の理由が気になった。そのように思われない教師が教育現場に必要であり、確固たる師弟関係が築くことのできる心構えを忘れない教師をめざす学生を本学で育成したいと強く感じた。また、コロナ自粛は学校行事の中止や縮小がなされたが、当たり前前のことが当たり前前にできる日常生活への感謝の念を抱くようになっていく。つまり、コロナ自粛を悲観的にとらえていた児童生徒ばかりではなく、創意工夫して生活すればよいか、前向きに考えるにはどうすればよいのかなどの課題対応能力を伸ばしていたケースがあることが今回の調査から明らかになった。

5 学生の思い出から見えてくる今後の教育活動の方向性へのヒント

今回のキャリアパスポートにおける「学生の思い出の振り返り」集計結果から今後の教

育活動の方向性として重視したい3点を以下のように考える。

- ①特別活動の着実な実施とその時間確保
- ②中学校における校内部活動の継続と活動内容の検討
- ③キャリア形成を伸ばすための資質。能力と教育活動との整合性を図った個別最適な学びへの支援

この3点を「令和の日本型学校教育」の主だった方針(1)～(3)に追加検討することが、今後の教育改革の方向性へのヒントになると考えた。

(1) 急速に変化する時代の中で育むべき資質・能力（学習指導要領の着実な実施、ICT活用など）について

「①特別活動の着実な実施とその時間確保」を加え、その取り組みを推奨する施策を打ち出す。今回の調査結果から、特別活動の重要性が明らかになった。特別活動に関わる思い出が、小中高校の全ての校種に多いという観点から、「特別活動の着実な実施とその時間確保」は必須であり、その具体的施策を打ち出す必要がある。教育現場では、特別活動を教科の時間、行事の準備、学年集会などに代替する風潮がありがちで、授業時間の確実な確保が第一に重要となる。次に、特別活動の実践、特に学校行事は企画運営の時間が必要であるため、放課後の活動の時と場の設定保障をする配慮が必要である。さらに、学校経営案や年間教育計画案に各学校の実態に応じた創意工夫された活動内容を加え、教職員全員の共通認識と協働体制の構築に努めたい。

また、各教科領域の学習指導要領の内容が豊富過ぎ、多種多様な〇〇教育の推進というあれもこれも押し付けられたイメージを抱く教育現場の教師たちは筆者を含め多くいる。学習指導要領の着実な実施には賛成であるが、教育現場では時間数の圧倒的な不足という現実がある。そのため、特別活動や道徳、総合的な学習（探究）の時間が軽視される傾向がありがちである。例えば、教育研究先進校である附属小学校で、君が代を授業で扱わなかったり毛筆を硬筆に代替した書写の授業であったりと、学習指導要領を遵守しないことがニュースとして報道された。その学校を擁護する意図はないが、研究先進校として、探究学習やICTを活用した授業などに取り組めば、必然的に学習指導要領に準拠した授業時数が不足する。その弊害がこのような出来事を引き起こしているのではないかと推測する。学習指導要領の内容が机上の空論になってないか、内容が豊富過ぎないかなど、今回の調査結果を受け、キャリア形成の中核となる特別活動の重視を前提とした次期学習指導要領の改訂に向けた再検討の必要があることが分かった。

- ・方向性の追加→特別活動の着実な実施と時間確保、次期学習指導要領の内容の見直しとキャリア教育の要となる特別活動の重視

(2) 「日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動き（働き方改革、GIGA スクール、少子化と多様化など）について

「②中学校における校内部活動の継続と活動内容の検討」を加え、その取り組みを推奨する施策を打ち出す。

働き方改革のひとつに部活動の見直しがある。中学校の部活動の方向性として、地域移行型、地域ブロック型（複数の中学校で一つの部活動実施）の二つが全国の中学校現場で検討され、それに基づいて実施する方向性である。今回の調査結果から中学生のキャリア形成にとっての校内部活動は重要な活動であることが判明したことから、校内部活動を地域の外部指導者で実施する方向性が相応しいと判断する。

しかし、中学校の部活動を教師サイドの働き方改革と生徒サイドのキャリア形成育成の両視点から部活動の在り方をとらえたい。確かに教師の勤務時間などの働き方に影響のある部活動ではあるが、部活担当希望制や外部講師採用制などは予算や活動施設面、教師の意識変革などを通して解決できるであろう。しかし、生徒にとって一生の思い出のひとつとなる中学校の部活動は、学校内での人間関係からの学びや顧問との出会い、チームとしての団結など、同じ学校の生徒同士だからこそ学べる要素が多いと今回の調査で感じた。クラブチームへの参加でも同様の学べる要素はあるが、教師が関わっていくことで学校生活全体を通した効果的なキャリア形成の高まりを図ることができると思う。学校内へ地域の外部指導者が来校した技能面の指導は、児童生徒にとってその効果は絶大であろう。同時に、生徒の人格形成やキャリア形成を見通した指導や配慮は教師の支援効果も的確で相応しいものになる。外部講師を招聘する場合は、練習内容を地域外部講師、支援方法を教師が担当するという仕分けを明確にした部活動の実施が望ましいと考える。

地域外部講師による不祥事への懸念や確保の困難さ、働き改革からの教師の関わり方や生徒個々への支援方法など課題は山積である。しかし、中学校の校内部活動の継続が望ましいことが、今回の思い出調査結果から分かった。複数の中学校が合同で行うブロック単位実施の場合は、移動手段、時間や場所、外部指導者、愛校心低下などの課題があり、これらのことを鑑みると、校内部活動の継続が前提とした中学校の部活動改革が相応しいと考えている。生徒の願いや心身の成長を考慮したキャリア形成の視点から中学校の校内部活動の在り方を検討することが急務であろう。

さらに、中学校の部活動を勝利至上主義から脱却させ、人格形成重視主義への方向転換が相応しいのではないか。いわゆる「ゆる部活」の推奨である。ネーミングからお遊び部活動のイメージを抱くが、技術の向上を図りつつレクの要素を兼ねた遊び心のある活動内容を随所に組み入れることである。これは技術指導を専門とする外部講師の理解を得て、教師が実施方法や生徒の個々の支援を教師サイドで決め、その方針に従って外部講師に技術面を中心とした練習内容を担当してもらう手法が相応しいと考える。

- ・方向性の追加→中学校の校内部活の存続と継続、働き方改革の視点と児童生徒のキャリア形成の視点による部活動改革、勝利至上主義から人格形成重視主義の中学校の部活動

(3) 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿(アクティブラーニングやインクルーシブ教育システムなどの子供の学びとしての個別最適な学びと協働的な学びの実現、質の高い教職員などの姿、子供の学びや教職員を支える環境など)について

「③キャリア形成を伸ばすための資質・揚力と教育活動との整合性を図った個別最適な学びへの支援」を加え、その取り組みを推奨する方策を打ち出す。

小学校の段階は休み時間の遊びから人間関係形成を、中学校と高校の段階は小集団より学級や学校全体の大集団から人間関係形成を学ぶことが分かる結果であった。これを受け、協働的な学びについては、小学校段階では小集団での活動、中学校と高校は小集団よりも大集団での活動がキャリア形成の育成には相応しく効果が高いことが判明した。

さらに、特別活動を要としたキャリア教育の展開をするために、「キャリア形成を伸ばす教育活動(表②)」で述べたように、キャリア形成を育成する4つの資質・能力でそれぞれの教育活動との整合性を図ることが必要である。そうすることで、教師は一人一人の児童生徒の個性を的確に把握した上で、キャリア形成がどのように伸びていくかを想定した個別支援計画を立案することができる。このことが、子供の学びが個別最適な学びの礎となっていくのである。特別活動の授業内でキャリアパスポートを活用し、記載された自己の思い出の振り返りや願い、評価などを生かさせることが教師支援であり、その支援が児童生徒の個別支援計画となっていく。

- ・方向性の追加→小集団や大集団で行う協働的な活動の重視、キャリア形成を伸ばすための資質・能力と教育活動との整合性、個別最適な学びのための個別支援計画の立案

おわりに

学生たちの「キャリアパスポートによる思い出の振り返り」調査は非常に興味深かった。例えば、「小4で宿題をやらず泣いていたら、先生からあなたの涙は必要ないと言われ、泣いて許されなく初めてしっかりと怒られ、課題は必ず提出するようになった」と10数年前の教師の一言がその学生のキャリア形成の礎になったのである。その場は厳しい指導であっても、その後に役立つ指導となっており、この出来事は、教師の指導のあり方の参考になるものである。その反対に、「いじめがあったことに気づかなかったことが、傍観者として加害者扱いを先生からされた。先生が必ずしも正しいわけではないこと、いじめは気づかないこともあることを学んだ」という教師の不適切と思われる指導が心に残ることもあり、教師の指導のあり方の難しさを感じた。また、「はじめに」で紹介したKさんの強烈ないじめの思い出の授業感想を読み、キャリアパスポートにそれが書かれなかった疑問が本稿を執筆するきっかけとなった。それがなかったら本稿執筆に至らなかったことを鑑みると、Kさんに感謝しなければならない。

学生365名のキャリア形成がなされた「キャリアパスポートによる思い出の振り返り」をとらえたことで、今後の学校教育活動の方向性が見えてきた。思い出を振り返っている活動のほとんどは、デジタルやICTとは関係のない、ある意味アナログの活動によって、対面による人と人の関わり合いに関する人間関係に関するものばかりであった。「流行と不易」の言葉通り、Society5.0の実現に向けた時代になろうとも、児童生徒は学校行事と部活動から心身共にキャリア形成しながら成長することを再認識した。今後もキャリアパスポートに記載された小中高校の思い出の集計を積み重ねていくことを通し、令和の日本型教育の方針となっている教育活動を見つめ直していきたい。

最後に、今後も本学の学生が「なりきり教師」を意識して勉学に励む支援を授業で行っていけるよう励む決意であることを記して終える。

参考文献

文部科学省 HP の「令和の日本型学校教育」、「キャリアパスポート資料」

活動報告等 (2023年度)

令和5年度 教職支援センター関連行事日程表(春学期)	24
令和5年度 教職支援センター関連行事日程表(秋学期)	25
令和5年度 資格課程登録者について	26
①教職課程 (大学院生、科目等履修生含む)	26
②図書館司書課程	26
③博物館学芸員課程	26
④学校図書館司書教諭課程	27
⑤社会教育主事課程	27
令和5年度 博物館学芸員課程ガイダンス・説明会スケジュール	28
博物館学芸員課程資格取得者数	28
令和5年度 博物館館務実習先一覧	29
愛知学院大学教職支援センター規程	30
愛知学院大学教職支援センター運営委員会規程	33
愛知学院大学教職支援センター実務委員会規程	35
愛知学院大学教職支援センター年報編集規程	36
令和5年度 第1回教職支援センター運営委員会 要項	37
令和5年度 第2回教職支援センター運営委員会 要項	38
令和5年度 第3回教職支援センター運営委員会 要項	39
令和5年度 第4回教職支援センター運営委員会 要項	40
令和5年度 第5回教職支援センター運営委員会 要項	41
令和5年度 第6回教職支援センター運営委員会 要項	42
令和5年度 第7回教職支援センター運営委員会 要項	43
令和5年度 教職支援センター運営委員	44
令和5年度 教職支援センター実務委員	45
教職支援センター年報編集委員	45
愛知学院大学教職支援センター年報投稿要領	46

令和5年度 教職支援センター関連行事日程表(春学期)

4月		5月		6月		7月		8月		9月			
1	土	入学式	1	月	1	木	1	土	1	火	1	金	再試験
2	日		2	火	2	金	2	日	2	水	2	土	
3	月	新入生教職・学芸員ガイダンス(日進)	3	水	3	土	3	月	3	木	3	日	
4	火	履修相談会・新入生教職ガイダンス(名城公園)	4	木	4	日	4	火	4	金	4	月	追試験
5	水	新入生オリエンテーション	5	金	5	月	5	水	5	土	5	火	
6	木	教育実習事前指導ガイダンス(日進)	6	土	6	火	6	木	6	日	6	水	履修登録
7	金	履修登録	7	日	7	水	7	金	7	月	7	木	履修登録
8	土	履修登録	8	月	8	木	8	土	8	火	8	金	履修登録
9	日	履修登録	9	火	9	金	9	日	9	水	9	土	
10	月	履修登録	10	水	10	土	10	月	10	木	10	日	
11	火		11	木	11	日	11	火	11	金	11	月	
12	水		12	金	12	月	12	水	12	土	12	火	
13	木	教育実習事前指導ガイダンス(名城公園)	13	土	13	火	13	木	13	日	13	水	
14	金		14	日	14	水	14	金	14	月	14	木	
15	土		15	月	15	木	15	土	15	火	15	金	
16	日		16	火	16	金	16	日	16	水	16	土	
17	月		17	水	17	土	17	月	17	木	17	日	
18	火		18	木	18	日	18	火	18	金	18	月	
19	水		19	金	19	月	19	水	19	土	19	火	
20	木	運営委員会①	20	土	20	火	20	木	20	日	20	水	
21	金	教育実習内諾説明会(日進)特別支援	21	日	21	水	21	金	21	月	21	木	
22	土		22	月	22	木	22	土	22	火	22	金	
23	日		23	火	23	金	23	日	23	水	23	土	
24	月		24	水	24	土	24	月	24	木	24	日	
25	火	教育実習内諾説明会(名城公園)	25	木	25	日	25	火	25	金	25	月	
26	水	教育実習内諾説明会(日進)	26	金	26	月	26	水	26	土	26	火	
27	木	教育実践力向上 CBT	27	土	27	火	27	木	27	日	27	水	3年生教職ガイダンス(日進)
28	金		28	日	28	水	28	金	28	月	28	木	
29	土		29	月	29	木	29	土	29	火	29	金	2年生教職ガイダンス(日進)・3年生教職ガイダンス(名城公園)・秋学期試験
30	日		30	火	30	金	30	日	30	水	30	土	
			31	水			31	月	31	木			再試験
備考		・東京アカデミー模試③	備考			・1年生教職課程仮登録 ・1年生教職課程仮登録者面談	備考			備考		備考	・教員採用試験対策(二次) ・教職課程秋学期開始者面談期間(2~4年生) ・資格課程秋学期開始者納金(2~4年生)

活動報告等 (2023年度)

令和5年度 教職支援センター関連行事日程表(秋学期)

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1	日	1	水	1	金	1	月	1	木	1	金
2	月	2	木	2	土	2	火	2	金	2	土
3	火	3	金	3	日	3	水	3	土	3	日
4	水	4	土	4	月	4	木	4	日	4	月
5	木	5	日	5	火	5	金	5	月	5	火
6	金	6	月	6	水	6	土	6	火	6	水
7	土	7	火	7	木	7	日	7	水	7	木
8	日	8	水	8	金	8	月	8	木	8	金
9	月	9	木	9	土	9	火	9	金	9	土
10	火	10	金	10	日	10	水	10	土	10	日
11	水	11	土	11	月	11	木	11	日	11	月
12	木	12	日	12	火	12	金	12	月	12	火
13	金	13	月	13	水	13	土	13	火	13	水
14	土	14	火	14	木	14	日	14	水	14	木
15	日	15	水	15	金	15	月	15	木	15	金
16	月	16	木	16	土	16	火	16	金	16	土
17	火	17	金	17	日	17	水	17	土	17	日
18	水	18	土	18	月	18	木	18	日	18	月
19	木	19	日	19	火	19	金	19	月	19	火
20	金	20	月	20	水	20	土	20	火	20	水
21	土	21	火	21	木	21	日	21	水	21	木
22	日	22	水	22	金	22	月	22	木	22	金
23	月	23	木	23	土	23	火	23	金	23	土
24	火	24	金	24	日	24	水	24	土	24	日
25	水	25	土	25	月	25	木	25	日	25	月
26	木	26	日	26	火	26	金	26	月	26	火
27	金	27	月	27	水	27	土	27	火	27	水
28	土	28	火	28	木	28	日	28	水	28	木
29	日	29	水	29	金	29	月	29	木	29	金
30	月	30	木	30	土	30	火			30	土
31	火			31	日	31	水			31	日
備考		備考		備考	・愛知県公立小中学校・名古屋立 学校教育実習一括申請個票締切 ・東京アカデミー模試① ・資格課程新規開始希望案内	備考	・教職課程開始希望者面談期間 (新2～4年)	備考	・東京アカデミー模試② ・教員採用試験対策(新4年生) ・教職ランチャー	備考	・資格課程登録希望者納金 (新2～4年生) ・学芸員課程登録希望者選考・納 金(新2年生) ・編入・転部(科)オリエンテーション (新2年～4年生) ・東京アカデミー模試③(4月実施)

令和5年度 資格課程登録者について

令和5年4月15日時点

①教職課程（大学院生、科目等履修生含む）

	宗教文化	歴史	英語英米文化	日本文化	グローバル英語	商	経営	経済	法律	現代社会法	総合政策	心理	健康科	健康栄養	合計
2年	6	22	2	17	11	2	5	2	1	1	8	4	76	1	158
3年	2	17	5	12	6	2	2	1	1		2	4	65		119
4年	1	14	5	5	9	1	2	3	1	1	1	1	55		99
学科計	9	53	12	34	26	5	9	6	3	2	11	9	196	1	376

②図書館司書課程

	宗教文化	歴史	英語英米文化	日本文化	グローバル英語	商	経営	経済	法律	現代社会法	総合政策	心理(心身科学)	健康科学	心理(心理)	合計
2年	1	13		11			1			1	2				29
3年	7	12	1	20				1			3	10			54
4年	8	14	3	22				1			3	4	1		56
学科計	16	39	4	53	0	0	1	2	0	1	8	14	1	0	139

③博物館学芸員課程

	宗教文化	歴史	日本文化	合計
2年	4	30	11	45
3年	5	35	8	48
4年(※)	5 (5)	42 (37)	7 (7)	54 (49)
学科計	14 (5)	107 (37)	26 (7)	147 (49)

※括弧は館務実習予定者

活動報告等 (2023年度)

④学校図書館司書教諭課程

	宗教文化	歴史	英語英米文化	日本文化	グローバル英語	商	経営	経済	法律	現代社会法	総合政策	心理(心身科学)	健康科	合計
3年				1								1		2
4年		1		3										4
学科計	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6

⑤社会教育主事課程

	宗教文化	歴史	日本文化	総合政策	健康科	合計
2年	1	1		2		4
3年	1	1	2	1		5
4年		2		1		3
学科計	2	4	2	4	0	12

令和5年度 博物館学芸員課程ガイダンス・説明会スケジュール

日付	詳細
4月3日(月)	新1年生対象ガイダンス
6月12日(月)	宗教文化・歴史学科対象 博物館(館務)実習事前指導
6月14日(水)	日本文化学科対象 博物館(館務)実習事前指導
12月4日(月)	宗教文化・歴史学科3年生(次年度実習該当者)対象 博物館館務実習依頼 説明会
12月7日(木)	日本文化学科3年生(次年度実習該当者)対象 博物館館務実習依頼 説明会
3月18日(月)	新2年生向けガイダンス(転部・転科者含む)
3月21日(木)	新2年生受講許可者発表

博物館学芸員課程資格取得者数

2023年度	47名
2022年度	30名
2021年度	50名
2020年度	48名
2019年度	46名
2018年度	45名
2017年度	56名

令和5年度 博物館館務実習先一覧

所在県	実習先	学科ごとの実習者数				
		宗教文化	歴史	日本文化	大学院	計
愛知県	熱田神宮宝物館			1		1
	あま市七宝焼アートヴィレッジ		1			1
	荒木集成館		1			1
	一宮市博物館			1		1
	岩崎城歴史博物館		1			1
	大府市歴史民俗資料館			1		1
	蟹江町歴史民俗資料館	1		1		2
	刈谷市歴史博物館		1			1
	北名古屋市歴史民俗資料館		1			1
	桑山美術館			1		1
	昭和美術館		1			1
	瀬戸市美術館		1			1
	戦争と平和の資料館ピースあいち		1			1
	田原市博物館		1			1
	とこなめ陶の森資料館		2			2
	豊川市桜ヶ丘ミュージアム		1			1
	名古屋海洋博物館		2			2
	名古屋市博物館		2			2
	南山大学人類学博物館	1	1			2
	西尾市岩瀬文庫		1			1
	博物館 明治村	1	1	1		3
	古川美術館		1			1
	みよし市立歴史民俗資料館	1	1			2
野外民族博物館リトルワールド		1			1	
岐阜県	可児郷土歴史館	1				1
	岐阜県現代陶芸美術館		2			2
	岐阜県博物館		1			1
	岐阜市歴史博物館		3			3
	土岐市美濃陶磁歴史館			1		1
	中山道広重美術館		1			1
三重県	斎宮歴史博物館		1			1
	四日市市立博物館		1			1
静岡県	佐野美術館			1		1
	静岡市歴史博物館		1			1
	昭和美術館		1			1
長野県	飯田市美術博物館		1			1
広島県	公益財団法人広島市文化財団 広島城		1			1
高知県	高知県立高知城歴史博物館		1			1
計		5	36	8	0	49

愛知学院大学教職支援センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知学院大学教職支援センター（以下「センター」という。）の組織および運営について必要な事項を定める。

(所属)

第2条 センターは、学長に直属する。

(目的)

第3条 センターは、教職課程、ならびに、図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程、博物館学芸員課程および社会教育主事課程（以下「資格課程」と総称する。）に関する事項を円滑かつ効果的に運営するとともに、その充実を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 センターは、前条の目的を達成するため次の各号の事業を行う。

- (1) 資格課程に関すること
- (2) 教育委員会、本学卒業生等との連携に関すること
- (3) 教員職他のキャリア支援に関すること
- (4) 教員免許状更新講習に関すること
- (5) 教員養成に係る教育の質の向上に関すること
- (6) 調査研究、および成果の発表に関すること
- (7) その他、目的達成に必要なこと

(運営委員会)

第5条 センターの運営に関する審議機関としてセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を設ける。運営委員会規程は別に定める。

(組織)

第6条 センターは、次の者で組織する。

- (1) 所長 1名
- (2) 主任 1名
- (3) 所員
- (4) 事務長 1名
- (5) 事務職員（教務課職員が担当する。）

（所長）

第7条 所長は、センターの業務を統括し、センターを代表する。

- 2 所長は、本学の専任教員から学長が推薦し、学内理事会の議を経て、理事長が委嘱する。
- 3 所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 所長が欠けたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（主任）

第8条 主任は、運営委員会の互選により所長が推薦し、学長が委嘱する。

- 2 主任は、所長を補佐し、所長不在時は、運営委員会および実務委員会の議長を務める。
- 3 主任の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 主任が欠けたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（所員）

第9条 所員は、センターの目的達成に必要な事業を遂行する。

- 2 所員は、次の者とする。
 - (1) 運営委員会およびセンター実務委員会の委員
 - (2) センターに所属する専任教員および教職アドバイザー
- 3 前項に掲げる者のほか、学内外の有識者の中から所長が推薦し、センター運営委員会の議を経て、学長が所員を委嘱することができる。

（事務長）

第10条 事務長は、センターの目的達成に必要な業務を遂行する。また、事務職員に業務を指示する。

（事務職員）

第11条 事務職員は、センターの目的達成に必要な業務に従事する。

- 2 前項の業務は、教務部教務課が担当する。

（実務委員会）

第12条 センターの事業を円滑かつ効果的に運営するとともに、その充実を図るために、実務機関としてセンター実務委員会を設ける。センター実務委員会規程は別に定める。

（規程の改廃）

第13条 この規程の改廃は、運営委員会及び代表教授会の議を経て、学長の承認を得るものとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日より施行する。

この規程は、平成30年4月1日より施行する。

愛知学院大学教職支援センター運営委員会規程

（趣旨）

第1条 この規程は、愛知学院大学教職支援センター規程第5条に基づき愛知学院大学教職支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

（構成）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者で構成する。

- (1) 教職支援センター（以下「センター」という。）の所長
- (2) センター主任
- (3) 教職課程を置く学部の学部長および教養部長により専任教員の中から推薦された者各2名。ただし、各2名の内1名以上は教授とする。
- (4) センター所属の専任教員
- (5) センター事務長
- (6) その他所長が必要と認めた者

（委員の任期）

第3条 前条第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。また、任期途中で交代する場合の任期は、前任者残任期間とする。

2 前条第3号以外の委員の任期は、該当役職の在任中とする。

（会議）

第4条 委員会は、必要に応じ、センター所長が招集し議長を務める。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 委員会の決議は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長が決する。
- 4 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（審議事項）

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターに関する諸規程の制定および改定に関する事項
- (2) センターの予算に関する事項
- (3) センターに所属する専任教員の採用および資格昇任の選考に関する事項
- (4) 教職アドバイザーの採用に関する事項

- (5) 資格課程の非常勤教員の採用に関する事項
- (6) 資格課程科目の担当教員に関する事項
- (7) 主任の選出に関する事項
- (8) 実務委員の選出に関する事項
- (9) その他センターの運営に関する事項

(委員会の事務)

第6条 委員会の事務は、センターにおいて、これを行う。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、委員会及び代表教授会の議を経て、学長の承認を得るものとする。

附 則

この規程の施行により教職課程委員会規程（昭和62年12月1日施行）は、これを廃止する。

この規程は、平成30年4月1日より施行する。

この規程は、令和3年4月1日より施行する。

この規程は、令和4年4月1日より施行する。

愛知学院大学教職支援センター実務委員会規程

（趣旨）

第1条 この規程は、愛知学院大学教職支援センター規程第12条に基づき愛知学院大学教職支援センター実務委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

（構成）

第2条 委員会の委員は、次の各号に掲げる者で構成する。

- (1) 教職支援センター（以下「センター」という。）の所長
- (2) センター主任
- (3) 文部科学省の課程認定における教職専任教員
- (4) 運営委員会から推薦された、教職課程を置く学部と教養部の専任教員若干名
- (5) センター所属の専任教員
- (6) センター事務長

2 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。また、任期途中で交代する場合、その任期は前任者の残任期間とする。

3 委員会が必要と認めるときは、前項以外に委員を加えることができる。

（会議）

第3条 委員会は、センターの事業推進のために必要に応じ、センター所長が招集し、議長を務め開催する。

2 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（委員会の事務）

第4条 委員会の事務は、センターにおいて、これを行う。

（規程の改廃）

第5条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、センター運営委員会の承認を得るものとする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日より施行する。

愛知学院大学教職支援センター年報編集規程

平成30年10月9日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知学院大学教職支援センター（以下「センター」という。）規程第4条第6号に基づくセンター年報（以下「本誌」という。）の編集・発行について必要な事項を定める。

(編集体制)

第2条 本誌の編集・発行は、この規程に基づき、本誌編集委員会が行う。

(編集委員会)

第3条 本誌編集委員会は、センター運営委員会において選出する5名以上の委員で構成し、委員長は委員の互選による。

2 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期途中で交代する場合の任期は、前任者残任期間とする。

(掲載原稿)

第4条 本誌に掲載する原稿は、本学資格課程に関連する領域の研究論文、研究ノート、資料紹介及び書評（以下「論文等」という。）並びにセンターの活動報告等とする。

2 本誌に前項の論文等を掲載しようとする者は、別に定める本誌投稿要領に従って投稿しなければならない。

(掲載の可否)

第5条 前条第2項により投稿された論文等の掲載可否は、本誌編集委員会が判断する。

2 掲載予定の論文等について、本誌編集委員会は、執筆者との協議を通じて、内容の変更を求めることができる。

(規程の改廃)

第6条 この規程の改廃は、センター運営委員会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成30年11月1日から施行する。

令和5年度 第1回教職支援センター運営委員会 要項

日時 令和5年4月20日(休) 17:00～

場所 日進キャンパス 本部棟2階会議室

名城公園キャンパス AGALSタワー 会議室3（遠隔会議）

〔抄録の確認〕

令和4年度 第6回教職支援センター運営委員会抄録（案）

〔審議事項〕

- (1) 教職支援センター主任の選出（資料1）
- (2) 令和5年度 教職ポートフォリオ確認担当者（資料2）
- (3) 令和5年度 教育実習巡回指導教員選出（資料3-1・3-2）
- (4) その他

〔報告事項〕

- (1) 令和5年度 教職支援センター予算示達（資料4）
- (2) 令和5年度 資格課程登録者（司書・司書教諭・博物館学芸員・社会教育主事）
（資料5）
- (3) 教職課程自己点検・評価報告書について
- (4) 新入生教職ガイダンス、今後のスケジュールについて（資料6）
- (5) その他

令和5年度 第2回教職支援センター運営委員会 要項

日時 令和5年5月24日(水) 17:00～

場所 Microsoft Teams によるメール会議 (オンライン)

〔審議事項〕

- (1) 資格課程科目学則変更 (資料1)
- (2) 教職支援センター年報編集委員の改選 (資料2-1)
教職支援センター年報編集規程 (参考) (資料2-2)

令和5年度 第3回教職支援センター運営委員会 要項

日時 令和5年7月19日(水) 17:00～

場所 日進キャンパス 本部棟2階会議室

名城公園キャンパス AGALSタワー 会議室3（遠隔会議）

〔抄録の確認〕

令和5年度 第1回教職支援センター運営委員会抄録（案）

令和5年度 第2回教職支援センター運営委員会抄録（案）

〔審議事項〕

- (1) 令和6年度資格課程科目開講コマ数・担当者（案）（資料1）
- (2) 教職ポートフォリオについて（資料2）
- (3) その他

〔報告事項〕

- (1) 教職課程自己点検・評価報告書について（資料3）
- (2) 令和5年度 介護等体験代替措置実施状況（資料4）
- (3) 教職支援センター活動報告（令和5年4月～9月分）（資料5）
- (4) その他

令和5年度 第4回教職支援センター運営委員会 要項

日時 令和5年10月19日(木) 17:00～

場所 日進キャンパス 本部棟2階会議室

名城公園キャンパス AGALSタワー 会議室3 (遠隔会議)

〔抄録の確認〕

令和5年度 第3回教職支援センター運営委員会抄録(案)

〔審議事項〕

- (1) 令和6年度資格課程科目開講コマ数・担当者(案)(資料1)
- (2) 令和6年度教育実習希望者可否判定(見込判定)(資料2)
- (3) 教職支援センター専任教員後任人事について(資料3 [回収資料])
- (4) その他

〔報告事項〕

- (1) 令和5年度実施 教員採用試験合格者(資料4 [回覧資料])
- (2) 愛知県教員採用試験教職担当者説明会(資料5)
- (3) 教職支援センター活動報告・予定(令和5年9月～11月分)(資料6)
- (4) 特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムの策定等について
- (5) その他

令和5年度 第5回教職支援センター運営委員会 要項

日時 令和5年11月20日(月) 17:00～

場所 日進キャンパス 本部棟2階会議室

名城公園キャンパス AGALSタワー 会議室3（遠隔会議）

〔抄録の確認〕

令和5年度 第4回教職支援センター運営委員会抄録（案）

〔審議事項〕

(1) 令和6年度資格課程科目担当者（案）（資料1-1）（資料1-2【回収資料】）

※新規採用非常勤講師 履歴書・教育研究業績書あり

(2) 商学部商学科の学則変更に伴う教職課程科目の学則別表変更（資料2）

(3) その他

〔報告事項〕

(1) 令和6年度 教育実習希望者可否判定（見込判定）報告（資料3）

(2) 教職支援センター活動報告・予定（令和5年11月～12月分）（資料4）

(3) 次年度の教員採用試験等の動向（資料5）

(4) その他

令和5年度 第6回教職支援センター運営委員会 要項

日時 令和6年1月29日(月) 17:00～

場所 日進キャンパス 本部棟2階会議室

名城公園キャンパス AGALSタワー 会議室3 (遠隔会議)

〔抄録の確認〕

令和5年度 第5回教職支援センター運営委員会抄録(案)

〔審議事項〕

- (1) 教職課程科目学則変更(案)(資料1)
- (2) 令和6年度 資格課程科目担当者変更(案)(資料2-1)(資料2-2・資料2-3【回収資料】)
※新規採用非常勤講師 履歴書・教育研究業績書あり
- (3) その他

〔報告事項〕

- (1) 令和6年度 資格課程科目シラバス第三者チェック(資料3)
- (2) 教職支援センター主な活動報告・予定(資料4)
- (3) 教職支援センター実務委員会について
- (4) その他

令和5年度 第7回教職支援センター運営委員会 要項

日時 令和6年3月8日(金) 14:00～

場所 Microsoft Teams によるオンライン

〔抄録の確認〕

令和5年度 第6回教職支援センター運営委員会抄録（案）

〔審議事項〕

(1) 令和6年度 資格課程科目担当者変更(案)(資料1-1)(資料1-2【回収資料】)

※新規採用非常勤講師 履歴書・教育研究業績書あり

(2) 教職支援センター実務委員会について（資料2）

(3) その他

〔報告事項〕

(1) 教職課程科目学則変更（資料3）

(2) 令和6年度 教育実習希望者可否判定報告（資料4）

(3) 令和6年度 資格課程科目シラバス第三者チェック

(4) 教職支援ポートフォリオの確認（資料5）

(5) 令和6年度 教育実習特例・介護等体験代替措置

(6) 令和5年度 資格課程修了者・教員採用試験結果（資料6-1）（資料6-2）

(7) 令和5年度 教育実習評価票（資料7）【回覧資料】

(8) 教職支援センター主な活動報告・予定

(9) その他

令和5年度 教職支援センター運営委員

規程 第2条	所 属	氏 名	任 期 (任期2年)	
1号	センター所長	山 口 拓 史	R4.4.1 ~ R6.3.31	
2号	センター主任	近 藤 雅	R5.4.1 ~ R6.3.31	残任
3号	文 学 部	小 林 奈 央 子	R4.4.1 ~ R6.3.31	
		川 名 淳 子	R4.4.1 ~ R6.3.31	
	商 学 部	脇 田 弘 久	R5.4.1 ~ R6.3.31	残任
		伊 藤 聡 志	R4.4.1 ~ R6.3.31	
	経 営 学 部	林 伸 彦	R4.4.1 ~ R6.3.31	
		西 舘 司	R4.4.1 ~ R6.3.31	
	経 済 学 部	近 藤 万 峰	R4.4.1 ~ R6.3.31	
		古 田 学	R4.4.1 ~ R6.3.31	
	法 学 部	服 部 朗	R4.4.1 ~ R6.3.31	
		永 岩 慧 子	R4.4.1 ~ R6.3.31	
	総 合 政 策 学 部	泉 寛 幸	R4.4.1 ~ R6.3.31	
		榎 原 博 美	R4.4.1 ~ R6.3.31	
	健 康 科 学 部	大 澤 功	R4.4.1 ~ R6.3.31	
		服 部 浩 子	R4.4.1 ~ R6.3.31	
	心 理 学 部	八 田 純 子	R4.4.1 ~ R6.3.31	
		小 野 島 昂 洋	R4.4.1 ~ R6.3.31	
教 養 部	岡 島 秀 隆	R4.4.1 ~ R6.3.31		
	内 田 康 弘	R4.4.1 ~ R6.3.31		
4号	センター専任教員	大 矢 忠 史	在任中	新
		近 藤 雅	在任中	
5号	センター事務長	花 井 久 美 子	在任中	
6号	名城公園キャンパス 事務部次長	鶴 見 満 寿 美	在任中	

令和5年度 教職支援センター実務委員

規程 第2条	所 属	氏 名	任 期（任期2年）
1号	センター所長	山 口 拓 史	R4.4.1 ～ R6.3.31
2号	センター主任	近 藤 雅	R5.4.1 ～ R6.3.31
3号	教職専任教員	山 口 拓 史	在任中
		榑 原 博 美	在任中
		松 岡 弥 玲	在任中
		内 田 康 弘	在任中
4号	文 学 部	小 林 奈 央 子	R4.4.1 ～ R6.3.31
		井 上 瞳	R4.4.1 ～ R6.3.31
	商 学 部	吉 田 聡	R4.4.1 ～ R6.3.31
	法 学 部	黒 野 葉 子	R4.4.1 ～ R6.3.31
	健 康 科 学 部	下 村 淳 子	R4.4.1 ～ R6.3.31
		渡 辺 輝 也	R4.4.1 ～ R6.3.31
5号	センター専任教員	大 矢 忠 史	在任中
		近 藤 雅	在任中
6号	センター事務長	花 井 久 美 子	在任中

教職支援センター年報編集委員

所 属	委員長	氏 名	任 期
商 学 部		吉 田 聡	R2.11.1 ～ R6.10.31
総合政策学部		榑 原 博 美	R2.11.1 ～ R6.10.31
健 康 科 学 部		下 村 淳 子	R2.11.1 ～ R6.10.31
教 養 部	○	山 口 拓 史	R2.11.1 ～ R6.10.31
教職支援センター		大 矢 忠 史	R5.4.1 ～ R6.10.31

愛知学院大学教職支援センター年報投稿要領

平成30年10月9日制定

(趣旨)

第1条 この要領は、愛知学院大学教職支援センター年報（以下「本誌」という。）編集
規程第4条第2項に基づき、本誌への投稿方法その他必要な事項を定める。

(投稿資格)

第2条 本誌に投稿する資格がある者は、本学の教職員とする。ただし、本誌編集委員会
が必要と認めた場合はこの限りではない。

2 共同執筆による投稿の場合は、執筆者に1名以上の本学教職員が含まれていなければ
ならない。

3 本誌に投稿を希望する者は、愛知学院大学における研究者等の行動規範（平成21年4
月1日制定）を遵守しなければならない。

(転載の禁止)

第3条 本誌には、すでに公刊された研究論文、研究ノート、資料紹介、書評（以下「論
文等」という。）は掲載しない。

(原稿の様式)

第4条 投稿に際しては、次の各号に従って原稿を作成しなければならない。

- (1) 原稿のレイアウトはA4判、横書き、1頁40字×30行、上余白40mm、下左右余白
各30mmとし、完全原稿（電子媒体及びプリントアウト1部）を提出する。
- (2) 原稿（図表等を含む）の分量は、原則として研究論文20,000字（400字詰原稿用紙
換算50枚）以内、研究ノート14,000字（400字詰原稿用紙35枚）以内とし、資料紹
介等は本誌編集委員会が適宜判断する。
- (3) 研究論文、研究ノートには、研究内容に関するキーワード（5個以内）及び概要
（250字程度）を添付する。
- (4) 原稿提出の際には、別途、①投稿の種類区分（研究論文、研究ノート、資料紹介、
書評、その他）、②タイトル、③氏名・ふりがな、④所属、⑤連絡先（メールアドレス
又は電話番号等）を明記した表紙を付ける。

(申込み・提出期限)

第5条 投稿希望者は、毎年12月20日までに本誌編集委員会に前条第4号①～⑤を明記

した書面（任意様式）によって申し込むこととし、原稿の提出期限は翌年3月末日までとする。

（提出原稿修正の制限）

第6条 提出後の原稿の修正は行わない。ただし、やむを得ない場合は初校において修正を行い、その範囲は最小限度にとどめる。

（原稿組版の制限）

第7条 図表・カラー写真その他の掲載等により一般の編集経費より多くかかる場合は、本誌編集委員会の審議を経て、超過分実費を執筆者が負担することとする。

（校正）

第8条 校正は再校までとし、本文については執筆者が行い、表紙・奥付その他については本誌編集委員会が行う。

（著作権）

第9条 本誌に掲載された著作物の著作権は、著作者に帰属し、その著作物の内容についての責任は著作者が負う。

（掲載論文等の複製権・公衆送信権）

第10条 本誌に掲載された論文等の電子化・公開に関わる複製権および公衆送信権は、センターに属する。ただし、掲載された論文等の執筆者が他の雑誌等への転載あるいは複製権又は公衆送信権の行使を申し出た場合は、正当な理由がない限り、センターはこれを拒むことができない。

（要領の改廃）

第11条 この要領の改廃は、センター運営委員会の議を経て、学長が行う。

附則

この要領は、平成30年11月1日から運用する。

年 月 日

愛知学院大学『教職支援センター年報』投稿申込書

下記の通り、『教職支援センター年報』への論文等の投稿を希望します。

記

① 投稿区分： 研究論文・研究ノート・資料紹介・書評・その他

② タイトル (仮題)：

(ふりがな)
③ 氏名： _____

④ 所属： _____

⑤ 連絡先： MAIL or TEL. _____

以上

整理番号	受付年月日	備考
	年 月 日	

令和6年12月1日 発行
愛知学院大学
教職支援センター年報
第6号(2023年度)

編集・発行 愛知学院大学
教職支援センター
〒470-0195
愛知県日進市岩崎町阿良池12
電話 〈0561〉(73) 1111 (代表)
制作 株式会社あるむ
電話 〈052〉(332) 0861